

# 03 | カラス被害防除



## 1 防除を始める前に確認

- 何による被害かをまず見極める。
  - ・カラスはムクドリ、ハクビシン等による被害と見分け方が難しい。
  - ・不明な場合は定点カメラ（価格:4～5万円）の設置が有効。
- 被害を受けている作物によって対策時期を決めて集中的に取り組む。
- どこからカラスが入ってきて、何の作物が被害を受けているかを分析し、ポイントをおさえて防除する。
- カラスが来る際には止まり木が必ずある。街なかの場合は電柱が止まり木になることもあるので、電力会社や電話会社に連絡して対応を求めるのも効果的。

## 2 捕獲、個体数調整

- 鳥の個体数調整は非常に難しい（が、やらないわけにはいかない状況）。
- 捕獲は、変化を持たせないことが重要（檻の餌は変えない）。
  - \*逆に防除(追い払い)には、慣れないよう変化を持たせることが重要。
- 捕獲檻で捕獲したカラスは、他のカラスに悟られないよう朝の涼しい頃（活動時間前）に処分するのが有効。
- カラスを撃つには30mが限界。
- カラスを撃つ猟友会等が着る服の色と同じ色のジャケットを農家が身に着けると、カラスは色を学習し、農家を見たら逃げるようになる。
- 5～6月をカラスを撃つ強化月間とする。
  - \*春先のカラスは学習していないものも多いので、狙いやすい。



## 3 追い払い

- 本気で危害を加えるつもりで行わないと、効果はない。
- レーザーポインターが有効（目に当てると嫌がる）。⇒緑でも赤でも可
- 観光ぶどう園では、お客さん（子供）におもちゃの銃を渡し、カラスを見たらそれを持って追いかけてもらうと効果的。

## 4 防除

- 園内の作物残渣を片付ける（鳥獣はエサ(ごみ)のあるところに必ずくる）。
- 鳥の種類によって防鳥ネットの網目の大きさやテグスの張り方が変わる。  
\*例 カラス:75mm、ムクドリ:30mm、スズメ:20mm
- ネットを張る際には、鳥類を防除するときはたるまないようピンと張る  
\*逆に4足歩行の鳥獣対策では、ネットを張る場合は、足が絡まるくらい緩く設置するのがポイント!!
- ぶどう園等でネット（テグス）を張る際は、端から端へ引っ張るのではなく、園の真ん中にポール（支柱）を設置し、そこから放射状に張る方が絡まりにくい

## 5 地域で取り組むべきこと

- 科学的に理解し、その知見を広めること（カラスの習性、基本的な防除法など）。
- 今の体制で実施できる対策を地域で検討することが重要。  
\*高齢化が進んで、地元ができないから行政がやるのは意味がない。  
\*行政がやる（実行する）のではなく、前向きな姿勢で地元働きかけることが大事
- 鳥獣害の場合、先進地視察に行っても得られるものは少ないと考える。  
⇒地域の実情、条件等はまったく違うため、先進地視察に行くのであれば、地元で集まって話し合いをする方が有意義

## 6 講習会での質疑応答

- Q. ドローンは鳥獣害対策に効果的？
- A. 追い払いには有効と考える。
- Q. レーザーポインターは何mくらいまで届く？
- A. 30mは届く。また、レーザーポインターは明るい時間帯にも有効。
- Q. 光、音、においなどによる追い払いは、定期的にものを変える必要があるとのことだったが、変えるタイミングは？
- A. 2週間に1度は変えてほしい。
- Q. どうしたら対策を継続できる？  
朝市の日には農家で追い払いを行ってはいるが、それだけで大丈夫？
- A. 定期的な追い払いは重要なので続けてほしい。さらに意識を高めるためには、「鳥獣対策」について話し合うための会合を開き、しっかりと議論すべき。また、女性の方がいる協議会の方が継続していると思う。

